

はじめに

読書は、人間にとって最も基礎的な活動の一つであり、生涯にわたる学習活動の基盤となるものです。特に、「子どもの読書活動」は、子どもが、言葉を学んだり、感性を磨いたり、表現力を高めたりと、創造力を豊かなものにしてくれます。子どもの読書活動を推進することは、子どもたちが自分の将来に夢を持って健やかに成長し、明日の社会の担い手となるうえで大変重要なことでもあります。

本県では、平成 16 年 3 月「愛知県子ども読書活動推進計画」を策定し、家庭・地域・学校・図書館等で様々な取組を進めてまいりました。

この間、学校においては「朝の読書タイム」等の取組が広がりを見せ、公立図書館では「児童図書室」や「ティーンズコーナー」の充実が図られ、地域では「読み聞かせ」等で活動するボランティアの人数が増加しました。

また、図書館や関係団体相互の連携が図られ、市町村においては独自の「子ども読書活動推進計画」の策定も進むなど、様々な取組の成果がみられました。

しかしながら、昨今テレビ・ビデオ・ゲーム・DVD・インターネット・携帯電話等の情報メディアの著しい発達により子どもの活字離れが進み、さらにはテレビやゲームに熱中する子どもの学習意欲の低下や読書離れ、また本を読む子と読まない子の差が広がっているなどが指摘されております。

本県では「ノーテレビデー・ノーゲームデー」の実践を呼びかけているところですが、子どもが読書に親しむことのできる環境づくりへのさらなる取組が課題となっております。

こうした中、第一次推進計画実施期間中の取組や成果、そして課題を検証したうえで、新たな取組や具体的な数値目標を加えるなどの見直しを行い、今後 5 年間の県内における子どもの読書活動を総合的に推進するための指針として「愛知県子ども読書活動推進計画（第二次）」を策定しました。